

ネパールからの報告（その2）

（竹の台 島田徹）

8月26日に発生したネパール洪水のことを、このHPに8月28日付け第1報として送りました。その時は、洪水の大きさには驚きましたが、まだ実感としての受け止め方は弱かったと思います。

しかし、その後、身近な方から、知り合いが亡くなったことや被害を受けたとの話を聞くと、その規模の大きさに驚いているところです。

とりわけ、私が第1報をしたとき、「5年前に 宿泊した地域が被害を受けたような画像を見ました。町は洪水があった川の最上流の川沿いにあったので本当に残念です」との表現でした。この表現の裏には、宿泊地は川から大分上部のところでしたので、下部の住居地は流されても、そこまでは？との思いもありました。しかし、その後、洪水の実態が明らかになる中で、その町の写真を見て、ショックを受けました。完全に町全体が泥の下に埋まっていました。

さらに、このショックを上積みするように、以前、その町から一緒にトレッキングをした時のガイドのプルナさんと出会う機会がありました。

彼から「チベットに入国するため、その町に待機していたガイド7名はみな親せきで、インド人旅行者38名も行方不明のまま」との話を聞きました。また、彼も本来はそのツアーグループに参加する予定だったのですが、急遽、別のグループに変更になったため、洪水の時はチベット側にいたそうです。彼はこの運命をどう考えたらいいのか悩んでいるとのことでした・・・・・・

（20260922 現在 ネパール側 1,450 死亡 5,132 行方不明 、中国側にも大被害有）

なお、10月18日(日)14時から西区文化センターで

*** =ネパールに見る気候危機= 先進国の「つけ」にあえぐ小国 ***

のテーマで詳しく報告いたしますので、ご参加ください。

被害にあったシャブルベシの町（右側写真の上が以前、下が今の様子）

プルナさん



ホテル

